

コブノメイガ情報第1号

令和元年8月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

**コブノメイガによる被害が平年よりも早く発生しています。
普通期栽培の作型では特に注意が必要です！**

1 発生状況

コブノメイガはセジロウンカやトビイロウンカと同様に海外から飛来し、例年の飛来時期は6月下旬から7月中旬となっています。日本植物防疫協会提供の気象再解析データによる飛来解析から県内各地で例年よりも早い6月7～8日にコブノメイガが飛来した可能性があり、実際に7月上旬の巡回調査において、県内各地でコブノメイガによる被害を確認しています。また、7月下旬の巡回調査で、県内のイネ157圃場を調査した結果、コブノメイガによる被害株率が平均0.25%となり、この時期では過去10年で2番目に高い値となっています。

2 コブノメイガについて

幼虫はイネの葉を1枚ずつ縦にたたくようにして葉先を食害し、次々と食害する葉を変えます。コブノメイガによる食害を受けた葉は白く見え（図1）、止葉に被害が多いと収量に影響します。

コブノメイガは1か月程度で1世代を経過し、世代を繰り返すごとに急激に生息密度が高まります。特に窒素過多や晩生のイネに多発することが多く、注意が必要です。



図1 コブノメイガによる被害

3 防除対策

コブノメイガは成虫発生ピークから7～10日後を目安とした若齢幼虫の防除が効果的です。図2の有効積算温度に基づくコブノメイガの発生予測を参考に、コブノメイガによる被害や幼虫の寄生を確認したほ場では、トレボンEW、トレボンエアー、MR.ジョーカーEW、ディアナSCなどで防除しましょう。

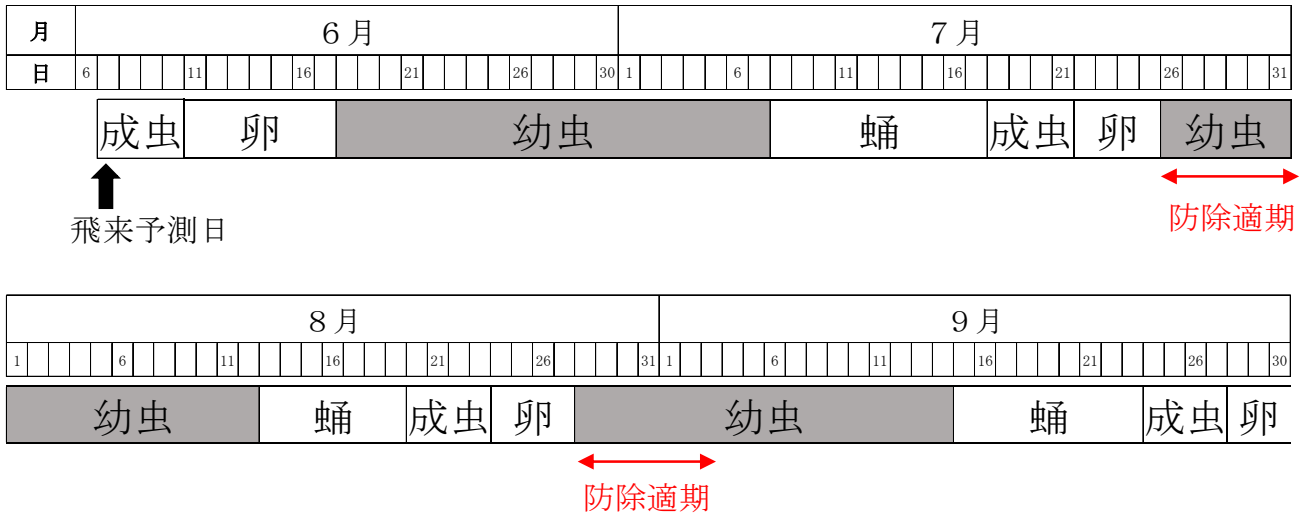


図2 有効積算温度に基づくコブノメイガの発生予測（参考）

日本植物防疫協会提供の気象再解析データによる飛来解析から6月7～8日にコブノメイガが飛来したと推定して有効積算温度を算出した。

気温はアメダス名古屋のデータを用いて解析をした。

7月30日までは実測値、7月31日からは平年値を用いた。